

日本人と外国人のコミュニケーションの障壁をなくそう

～言語と文化を超えて繋がる力～



マムルト ミルザ サイモン パン(マムルト ミルザ サイモン パン)

福島県立光南高等学校 2年

日本人と外国人のコミュニケーションの障壁をなくそう

～言語と文化を超えて繋がる力～

マムルト ミルザ サイモン パラン



活動概要

活動の内容

- 5月17日～6月14日 アンケート調査とインタビュー(対象者176人)
- 6月17日～6月23日 第1回国際交流会の準備
- 7月5日 第1回国際交流会開催(参加者約30名)
- 7月8日～7月15日 夏休みに開催する英語勉強会の準備
- 7月23日～8月23日(火曜日・金曜日) 英語勉強会開催(10回)
- 9月13日～10月16日 相談会と第2回国際交流会の準備
- 10月19日 相談会と国際交流会開催日
- 10月23日 クラスにて探究活動報告・発表
- 11月13日 2年次全体で探究活動報告・発表

活動の特徴(新規性・発展性)

私が取り組んだのは、地域社会における外国人と日本人のコミュニケーションの壁をなくすことを目的とした実践的な活動です。フィリピンで生まれ育ち、異国日本の地に移り住んだ経験と、英語と日本語両方の言語能力を活かし、様々な実践活動を行いました。例えば、白河市に住む外国人が直面する課題の分析や、国際交流イベントや英語勉強会の企画など、自分独自の視点から、多文化共生を目指した点が特徴です。

活動の成果

この活動を通じて、外国人と日本人が直接交流し、互いの文化や価値観を理解し合う機会を提供することができました。相談会では、外国人が直面する課題を共有し、日本人が支援する方法を模索しました。英語勉強会では、言語を通じて相互理解を深める場を作り、国際交流会では、言語の壁を超えた繋がりを築きました。これらの活動により、外国人と日本人の間に多文化共生の意識を広げ、地域の調和を促進することができました。

課題の設定と意図

私の探究課題は、「日本に住む外国人が直面する言語の壁とその克服方法」です。この課題を選んだ理由は、私自身がフィリピン出身で、日本での生活の中で言語の壁が原因となる困難を経験したことにあります。例えば、学校生活や日常の様々な場面でのコミュニケーション不足は、孤立感やストレスを引き起こし、外国人が地域社会に溶け込む大きな障壁となっています。

日本国内における外国人の割合は各地で年々増加しており、日本に住む外国人が直面するコミュニケーションの壁は、個人の問題というだけでなく地域社会全体にとっても大切な課題です。多文化共生の実現が求められる現代において、言語の壁は人々の相互理解や協力を阻む要因となり得ます。

私の活動では、言語の壁がどのように生じているのか、まずは地域の実態を調査し、その結果に基づいて外国人が地域社会によりスムーズに溶け込むための新たな解決策を提案することで、地域の調和や相互理解を深め、多文化共生社会の実現に貢献することを目指しています。この課題に取り組むことで、同じような困難に直面する人々を助け、地域社会全体にも貢献できると考えています。

課題解決のための仮説と計画

アンケートとインタビューの結果から、白河市に住む外国人が、日本文化へ適応することに難しさを感じていることや、75%以上の人が母国を恋しく思い、ホームシックを感じていることがわかりました。

そして、これらの課題を解決するために設定した仮説は、「外国人と日本人の間に存在する言語の壁を取り除くには、交流を通じて相互理解を深める機会と、実践的な言語支援を組み合わせた活動が効果的でないか」というものです。この仮説を検証するため、以下の3つの柱を中心とした実践活動を計画しました。

1. 国際交流会

外国人と日本人が直接対話し、互いの文化や価値観を共有する場を提供しました。参加者が言語の壁を越えて交流できるように、会話を中心とした活動に注力し、実際の生活で役立つコミュニケーションスキルの向上を目指しました。

2. 英語勉強会

日本人と外国人の両方を対象に、実践的な英会話を中心とした勉強会を開催しました。言語スキルの向上だけでなく、異文化を理解するための手段として、英語を活用し、参加者同士が対等に学び合える環境を整えました。

3. 相談会

外国人だけでなく、日本人も参加できる相談会を開催しました。この活動では、地域住民が直面する言語や文化に関する悩みや課題を共有し、地域社会や学校がどのような支援を提供できるかを考えました。参加者同士が意見交換をすることで、より多くの問題解決のヒントを得ることができました。



活動で工夫できたこと

実践活動で工夫した点は、参加者のニーズに応じて対応の仕方を柔軟に行ったこと、言語の壁を越えたコミュニケーションを促進しようと考えたことです。

例えば、英語勉強会では、レベル別のグループ分けを行わず、異なるレベルの参加者が互いに教え合い、助け合う形にしました。これにより、全員が共に成長できる環境が生まれ、学びが深まりました。また、会話中心の活動を多く取り入れることで、言語の習得だけでなく、異文化理解を進めることができました。

国際交流会では、事前にトークテーマを設定し、ディスカッション形式を取り入れました。参加者が自由に意見を交換し、お互いの文化や価値観を理解する場を提供しました。さらに、非言語コミュニケーションの重要性を強調し、ジェスチャーや表情を使って言葉の壁を越えることを意識してもらいました。これにより、より自然な交流が生まれました。

相談会では、当初は外国人を対象とした相談会を予定していたのですが、地域社会全体で課題を共有する形に変更しました。この変更により、外国人と日本人それぞれが抱える悩みに対して、具体的な解決策を共に考えることができました。

全体を通して私が意識したことは、自分のフリピン出身というバックグラウンドを活かし、外国人の立場から課題を捉え、共感と理解を大切にすることです。これらの活動を通じて、多文化共生の意識を広げ、地域社会に貢献できたと感じています。



活動で得た学び・気づき

今回の活動を通じて考えたこと、学んだことは、多文化共生社会における言語の壁の解決には、コミュニケーションを超えた相互理解が欠かせないということです。コミュニケーションの壁は単なる言葉の違いだけでなく、文化や価値観の違いから生じる誤解や偏見なども含まれることがわかりました。

このことから、今回の活動を通じて、単に言語を学ぶだけでなく、異文化理解を深めることの重要性を強く感じました。言葉の壁を越えるためには、文化や価値観に対する理解が必要であり、日本と外国の文化的な違いを理解することが第一歩だと実感しました。多文化共生社会を実現するためには、言語や文化の違いを恐れず受け入れ、互いに支え合うことが重要だと考えました。

また、この活動を通じて自分自身も成長できたと感じています。日本に住む外国人としての独自の経験を活かし、言語に対する理解を深め、他の人々を支援できたことに達成感を覚えました。今後もこの経験を活かし、多文化共生の社会実現のための活動を続けていきたいと強く思っています。

今後の展望・新たな取組み

今回の体験を通じて、多文化共生社会を実現するためには、言語や文化の違いから生じる誤解や偏見を減らし、相互理解を深めることが鍵であると感じました。この経験を踏まえ、今後も、地域とは異なる背景を持つ人々との橋渡し役として、より良い社会を築くために積極的に関わりたいと考えています。

まず、自分のフリピン出身というバックグラウンドを活かし、外国人が日本に来た際に感じる言語や文化の壁について支援活動をこれからも続けていきたいです。地域で外国人と日本人が良い交流を深める機会を提供するため、引き続き国際交流会や英語勉強会を開催したいと考えています。特に、参加者が言語や文化の違いを気にせず、誰もが気軽に参加できる場を提供することが重要だと感じています。

また、地域社会における相談会やワークショップの開催にも力を入れていきたいと思っています。外国人と日本人両方が抱える悩みを共有し、共に解決策を模索する場を作ることが大切です。私自身が外国人として日本で生活する中で、言語の壁を越えたコミュニケーションの重要性を感じているため、この課題に対する理解を深める活動を継続して行いたいです。

さらに、次世代への異文化理解の促進にも力を入れたいと思っています。将来的には、学校や地域での教育活動を通じて、多文化共生の大切さを伝える活動に取り組みたいと考えています。異なる文化を学び、理解し合うことで、誰もが自分の文化に誇りを持ち、他者の文化も尊重する社会が実現できると信じています。

現在、具体的な取り組みとしては、地域の国際交流団体や教育機関と連携して、異文化理解を深めるワークショップや勉強会を開催することを考えています。参加者が言語や文化の違いを恐れず積極的に交流できる場を提供することで、地域全体の理解と協力を促進したいと思っています。言語だけでなく、文化や価値観への理解を深めることが今後の活動の核となり、これが私の人生を通じて達成したい目標でもあります。

そして将来は、自ら海外での生活や仕事を体験し、より広い視野を持って多文化共生社会に貢献できるような活動をしていきたいと考えています。海外で得た知識や視点を日本や他国に役立てることで、自分自身の成長にもつながり、社会全体に良い影響を与えられると信じています。最終的には、多文化共生社会を実現するため、より多くの人々と協力し、誰もが安心して暮らせる社会を作ることが私の目標です。自分の経験と知識を活かし、地域社会に貢献する活動を続け、いずれは、より広い範囲で国際的な活動に挑戦したいと考えています。

実践活動時の動画や成果物等

動画URL	二次元コード	添付PDF あり

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	個人	ブロック	東北
---------	---	---------	----	------	----

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立那須甲子青少年自然の家	修了日	2024/4/17	カリキュラムのタイプ	B
フィールドワークの内容					
実践活動期間	2024/5/17 ~ 2024/11/13				
活動のタイプ	新たな活動				
共同実施者	無				
協力者	主な協力者			協力内容	
	所属	コミュニティカフェEMANON スタッフ・インターン		イベントを開催する時のサポート	
	氏名	コミュニティカフェEMANON スタッフ・インターン(約5人)			
	所属	新白河国際教育学院 副学院長		アンケート調査の協力	
	氏名	佐藤 絵美子			
	所属	コミュニティカフェEMANON 室長		イベントを開催する時のサポート	
氏名	青砥 和希				
協力者総数	7名		協力団体数	2団体	

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 100 日

事前:準備・打合せ	81日	本番:メインの活動	13日	事後:ふりかえり・報告	6日
-----------	-----	-----------	-----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
SNS	自ら発信	3回以上	Global HarmonyのInstagramアカウントで発信した。
SNS	自ら発信	3回以上	自分のInstagramアカウントで発信した。
SNS	取材された	2回	コミュニティカフェEMANONのInstagramアカウントで発信された。

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
5/17 ~ 6/14	①事前学習・打合せ等	学校・新白河国際教育学院・コミュニティカフェEMANON	地域の外国人と日本人を対象にアンケート調査とインタビューを行った。
7/5 ~ 7/5	②実践活動本番	コミュニティカフェEMANON	第1国際交流会を開催した。
7/23 ~ 8/23	②実践活動本番	コミュニティカフェEMANONと白河市立図書館	週2回(火曜・金曜)に英語勉強会を開催した。
10/19 ~ 10/19	②実践活動本番	コミュニティカフェEMANON	相談会と第2回国際交流会を開催した。
11/13 ~ 11/13	③事後打合せ・報告会等	光南高校	2年次全体に向けて探究活動の発表を行った。

アンケート結果

Q1: 日本での生活を楽しんでいますか？

- 日本人: 36 人中 26 人 (72.2%) が「楽しんでいる」と回答。
- 外国人: 139 人中 110 人 (79.1%) が「楽しんでいる」と回答。

Q2: 日本に来た回数は何回ですか？

- 日本人:
 - 1 回: 30 人 (83.3%)
 - 2 回: 3 人 (8.3%)
 - 3-4 回: 3 人 (8.3%)
- 外国人:
 - 1 回: 112 人 (80.6%)
 - 2-4 回: 27 人 (19.4%)

Q3: 日本に友達はいますか？

- 日本人: 36 人中 34 人 (94.4%) が「いる」と回答。
- 外国人: 139 人中 133 人 (95.7%) が「いる」と回答。

Q4: 日本の文化に適応するのは難しかったですか？

- 日本人: 36 人中 8 人 (22.2%) が「難しい」と回答。

- 外国人: 139 人中 68 人 (48.9%) が「難しい」と回答。

Q5: 他の国に住むことは良い経験だと思いますか？

- 日本人: 36 人中 35 人 (97.2%) が「はい」と回答。
- 外国人: 139 人中 137 人 (98.6%) が「はい」と回答。

Q6: 母国や故郷が恋しいですか？

- 日本人: 36 人中 10 人 (27.8%) が「恋しい」と回答。
- 外国人: 139 人中 105 人 (75.5%) が「恋しい」と回答。

Q7: 日本に来た理由は何ですか？

- 日本人:
 - 仕事: 1 人 (2.8%)
 - 留学: 34 人 (94.4%)
 - 家族: 1 人 (2.8%)
- 外国人:
 - 仕事: 45 人 (32.4%)
 - 留学: 18 人 (12.9%)
 - 家族: 76 人 (54.7%)

Q8: 日本文化について話し合える日本人の友人はいますか？

- 日本人: 36 人中 32 人 (88.9%) が「いる」と回答。

- 外国人: 139 人中 52 人 (37.4%) が「いる」と回答。

Q9: 経験を通じて学ぶことは、本やインターネットで学ぶより効果的だと思いますか？

- 日本人: 36 人中 34 人 (94.4%) が「はい」と回答。
- 外国人: 139 人中 132 人 (95.0%) が「はい」と回答。

Q10: 日本での生活は難しいと感じますか？

- 日本人: 36 人中 6 人 (16.7%) が「難しい」と回答。
- 外国人: 139 人中 85 人 (61.2%) が「難しい」と回答。

Q11: 今の経験に満足していますか？

- 日本人: 36 人中 33 人 (91.7%) が「満足している」と回答。
- 外国人: 139 人中 118 人 (84.9%) が「満足している」と回答。

アンケートから学んだこと

1. 文化への適応の難しさ:

外国人参加者は日本の文化に適応するのに多くの課題を感じており、特に言語の壁や社会的な期待、ライフスタイルの違いが原因です。このことから、外国人の文化適応をサポートするシステムが重要であることがわかりました。

2. 異文化交流の重要性:

日本人と外国人参加者は異文化交流を通じて多くの利益を得ていることがわかります。しかし、外国人は自分の文化を共有する機会が少ないため、より多くの交流の場を作ることが両者の理解を深めるために重要だと感じました。

3. ホームシックとサポートの必要性:

多くの外国人が母国を恋しく思っており、75%以上の方がホームシックを感じていることがわかりました。これは、孤立感を減らし、サポートネットワークを強化することの重要性を示しています。

以上の点から、外国人の生活支援や文化交流の機会を増やすことが、より良い社会作りに繋がると学びました。